

チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名(注1)	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
		地域コミュニティの再生	裾野市
チームがつけたアイデア名(公開)(注2)	裾野市民同士の交流を増やすには		

(注1) 地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

チーム名(公開)	はらへったわたるん		
チーム属性(公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生 ドロップダウン選択→		2.学生
チームメンバー数(公開)	4 名		
代表者(公開)	中野 航		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2024_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名([メンバー一覧ページ](#)を参照)、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について:
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示—非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OKなら右欄の○を選択 → OK

＜チームメンバー名簿:[メンバー一覧ページ](#)＞

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容(公開)

アイデアは、対象とする課題解決のために、どのような社会的活動(サービス)を行うのかを具体的に示してください。将来実現した場合に、新規性があり、実践したくなり、魅力的でわくわくするようなアイデアを求めます。その結果、課

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待されます。2 ページ以内でご記入ください。

※応募チームとして解決したい課題のポイントを、以下にごく短く書いてください

＜解決したい課題のポイント＞

地域コミュニティの再生

※以上の課題解決のために『何』をするアイデアか、それを『だれ』が『だれ』に対して『いつ』『どこで』『どのように』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

（参考）よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感（使う人の立場になってみる）が大切です。

＜提案するアイデアの内容＞

1. アイディアの概要

地域コミュニティ減少問題

地域全体で少子高齢化が進んでおり、イベントに参加する人が年々減少している。

イベントに参加する人が減少すると市民同士で交流する場も減っていく。

さらに、コロナウイルスの影響により今まで開催されていたイベントもここ数年開催されていなかった。そのためこの数年で特に減少したと考えられる。しかし昨年から再開し始めたイベントも増えていきだんだんコロナ前に戻りつつある。

地域コミュニティの減少による影響

実際に裾野高校にも影響が出ている。昨年行ったトークフォークダンスを今年も開催する予定だったが参加者が少なく開催できなかった。トークフォークダンスとは裾野高校生が地域の人と話し交流を深める行事だ。

地域コミュニティの復活を目指して！！

そこで地域コミュニティの復活を目指して、人が集まるイベントを分析し、最終的に高校生でも開催できるイベントはなにかを追求した。裾野市民に、イベントに参加したことがある人は参加しようと思った理由、参加したことない人は参加しようと思わなかった理由をアンケートとった。

2. イベント内容

フロー1: 参加したいイベントとは

裾野市民が参加したいと思えるイベントは食のイベントということわかった。そこで、裾野市の特産物を使ったイベントを考えた。裾野市は少子高齢化が進んでいて地域イベントに参加する人の年齢にも偏りがあり、高齢者に偏っている傾向がある。この食のイベントは全年齢が参加できるイベントとなっている。私達グループは青年層も集まるイベントを考えている。

フロー2: 裾野市民と助け合える関係づくり

裾野市の特産物をイベントで扱うには市の農家の方との連携が必要となってくる。裾野市の特産物には、モロヘイヤや大和芋などが裾野市のホームページにも載せてある。今回このような市の特産物を使ったイベントを開催したいとなった経緯などを説明し共に裾野市のイベントを盛り上げていきたいことを伝える。

3. 期待できる効果

① 裾野市の特産物を知ってもらうきっかけになる

このイベントで扱う食品のメインは裾野市の特産物だ。特産物を使った料理を出店することで美味しさを知ってもらうことができ、購入意欲を高めることができる。

② 市民同士の交流の場になる

特産物を使った美味しい食べ方などの共有や、市民が集まるイベントだから顔見知りが多く更に交流を深めることができることも予想される。

③ 農家の出番づくり

普段、消費者は生産物に注目し、生産者は注目されにくい。しかし、このイベントでは生産者の方にも協力してもらうため生産者も注目される。

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

※このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

<参考：以下のように理由を書いていきます>

※根拠：このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。

※裏付け：その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。（定性データを含めて歓迎）

※このアイデアを提案する理由(なぜ)を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのかを、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

＜参考：以下のように理由を書いていきます＞

※根拠：このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。

※裏付け：その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。（定性データを含めて歓迎）

理由1:地域イベントに参加している人が少ないと思ったから

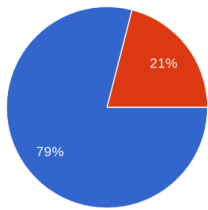
裾野市民 100 人にアンケートを取った結果

まず、地域イベントに参加したことがある人となない人の割合を調査した。その結果、約 8 割の人がイベントに参加したことがあった。この結果は私達が予想していた数値とは違い参加したことがある人のほうが多いことがわかった。

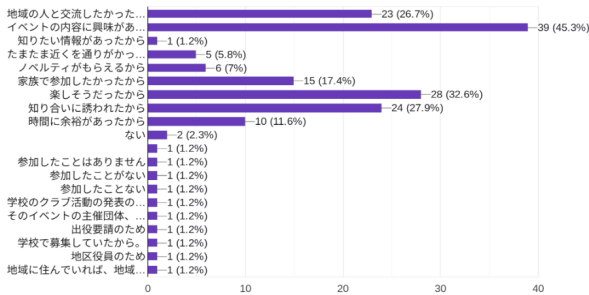
次に、参加したことがある人はなぜ参加しようと思ったのかを聞いた。その結果、イベント内容に興味があったという人が約5割いた。参加した人の中には地域の人と交流したかったという人も全体の約2割いた。また、参加したことがない人はなぜ参加しなかったのかを調査した。気になるイベントがないという人が一番多く、時間に余裕がないという人が二番目に多かった。

最後に、参加したことがある人、ない人どちらにも、今後どのようなイベントがあったら参加するのかアンケートを取った。その結果、食のイベントに参加したいという人が全体の半数以上を占めていた。

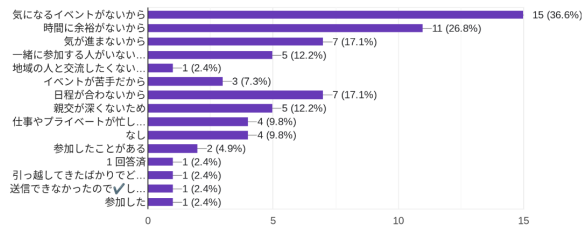
1. 地域のイベントに参加したことがありますか。
100 件の回答



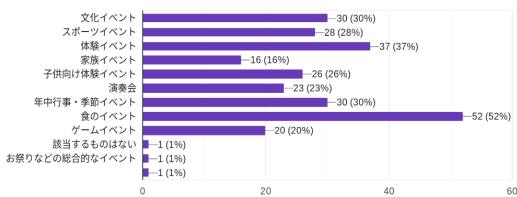
2. 1で参加したことがあると答えた方のみに質問...なぜ、イベントに参加したのか教えてください。
86 件の回答



3. 1で参加したことがないと答えた方のみに質問...イベントに参加しなかったのか教えてください。
41 件の回答



4. 全ての人に質問です。今後、どのようなイベントであれば参加したいか教えてください。
100 件の回答



理由2: 農業を活かしたい

裾野市には裾野市認定農業者協議会という認定農業者制度によって市から認定を受けた「認定農業者」の自主的な組織活動を通じてより高い生産性と農業所得の向上を目的に活動している。認定農業者制度は、自ら経営改善に取り組むやる気と能力のある農業者が、いわば「農業経営のスペシャリスト」を目指す計画である「農業経営改善計画」を作成し、その計画を市町村が認定する制度。地産地消の推進と生産者との交流を図ることを目的に毎年市民を対象とした、農業体験を行っている。

(3) アイデア実現までの流れ(公開)

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

<以下のように分けて書いていきます>

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

<以下のように分けて書いていきます>

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1. 実現する主体

スタッフ→裾野高校生

2. 実用に必要な資源

「ヒト」

1. 裾野高校生

イベントの主なスタッフとして働いてもらう。人数も十分にいるし、バイト経験者もいる。

2. 農家

イベントに使う食材を提供していただく。

3. 裾野市民

農家の方とのつながり、イベントに必要な道具などの貸出。

「モノ」

食材・イベント運営に必要な道具

「カネ」

スタッフ→ボランティア

食材→提供

実践のプロセス

裾野市の農業と連携→出店する食べ物を決める→開催までの日程決定